

## 平成 20 年度実施結果(ご参考)

### ■ 実施案件

- ・調査関連の課題： 新潟県上越市（地場産コシヒカリの差別性発見）
- ・商品関連の課題： 岐阜県瑞浪市（マコモタケの用途開発）、福岡県上毛町（渋柿の用途開発）
- ・デザイン関連の課題： 石川県志賀町（イカ加工品のパッケージデザイン開発）
- ・販路関連の課題：京都府福知山市（えごま加工品の販路確保）、和歌山県田辺市（梅商品の営業アプローチ改善）、兵庫県豊岡市（バラ加工品の販促企画）、広島県廿日市市（養殖カキの販売ルート再構築）
- ・その他の課題： 北海道伊達市（地場産品のネット通販構築）、山梨県大月市（郷土料理の常時提供の仕組みづくり）、長崎県佐世保市（パン教室のビジネスモデル構築）

### ■ 実施風景



### ■ 参加者の声

- ・ここ数年の課題であったが、実現のためにはどこから検討を進めればよいのか手探りの状態であった。今回の指導会では課題を取り巻く現状から、当市における事業計画まで具体的な提案をいただき、実現に向け大きく踏み出したと思う。
- ・1年前に産品販売を目標に組織を旗揚げしたものの、いまひとつその方策が見えずに組織がしぼみかけていたところ、アドバイザーが参加したことにより一気に息を吹き返した。専門家がその場に来てくれるというだけでも大きな効果があった。
- ・アドバイザーが課題解決に向けて会議に参加するなど、一步踏み込んだ指導は初めてであり、今回の現地指導会は非常に役立った。
- ・効果的な売り込み方法、店頭展開方法でスキルアップしたと思う。現場での問題点を具体的な事案に基づいて解決への道筋を思い描くことができた。
- ・アドバイザーには自分たち以上に熱心に商品がいかにか売れるようになるかということを考えてもらい、すごくありがたかった。適正な指導をプロの方からしてもらえたと思う。仕事に対しての意欲が少なからず自分たちに出てきたような気がする。それが何より現地指導会の一番良かった点だと思う。

- ・ 現地指導会という良いきっかけを得て、産品振興に関する関係者の意思統一が新たになり、また食品加工に関する専門知識を持つアドバイザーを得ることで当町の悲願である産品振興が現実味を帯びてきた。
- ・ 商品それぞれの魅力（特徴）を再認識することができた（田舎では当たり前のものが、都会の人にとっては貴重なものであったりする）ことに満足。
- ・ ほとんどがお客様の目線で見えた指摘だったので、十分納得のいく内容であった。

■ アンケート結果

